

## モンゴル～中国～ロシア経済回廊インフラ整備協力

モンゴル戦略研究所中国・東アジア研究センター研究員

B. オトゴンスレン

中国は、「シルクロード経済帯」と「21世紀海上シルクロード」の建設に焦点を置きつつ、地域の経済協力を実現し、6本の経済回廊を建設しようとして、「一带一路」構想および行動計画を推進している。中国、モンゴル、ロシア経済回廊は、「一带一路」の重要な一翼を担っている。

各国のインフラ整備投資力や、鉄道軌道幅と鉄道輸送力の違い、輸出構造といった面で一定の困難が存在するものの、各国が自国の政策の枠内で、3カ国による経済回廊形成に向けた作業を進めている。本報告は、これらのインフラ協力の取り組みの現状および今後の課題を明らかにしようとするものである。

中国、モンゴル、ロシア経済回廊によって、各国はよりよい方法でそれぞれの優位性を完全に発展させる機会が生まれる。3カ国の経済回廊がもたらすこうした機会を作り、また共有するためには、3カ国すべてが同じ方針の下で協力することや、一連の戦略的連携、若干の具体的行動が必要である。

経済回廊を形成することには合意したものの、解決を要する問題もある。特に、三方の活動を総合的に調整することや、法的環境や組織制度を構築することが必要だ。また、鉄道輸送力が異なっており、新たな技術の導入も遅い。新たに発見された天然資源産地を既存の幹線鉄道網に接続することも必要だ。モンゴル、中国、ロシアは、鉄道運賃および関連する諸問題の解決に向けた検討を行う必要がある。

中国、モンゴル、ロシア経済回廊によって、政府間の多国間政策・連携メカニズムを構築する機会が生まれる。経済回廊を形成するためには、鉄道など各国を結ぶインフラを整備する必要がある。そして、現在提案されているロシア、中国、モンゴルを結ぶ経済回廊が有効に機能するためには、共同で実務を担う一つの機構を立ち上げる必要がある。これにより、我々は喫緊の課題を解決し、費用を抑えつつ協力を促進することができる。

[ERINAにて翻訳]